

令和6年度 第1回岡崎市行財政調査会 会議録	
開催日時	令和6年6月20日（木） 午前10時00分～午前11時00分
開催場所	岡崎市役所東庁舎6階 601号室
委 員	出席者：大坪愛子、中嶋拓、中嶋有美子、丹羽美穂子、播元公昭、松下康之、 宮澤会美香 欠席者：太田健介、齊藤由里恵
事務局	財務部長：伊藤雅章、行政経営課長：勝上典、同課副課長：山内智弘 同課主任主査：光田和広、同課主事：米田優
会議次第	議題1 会長及び職務代理の選任について 議題2 岡崎市行財政改革推進計画令和5年度実績報告について 議題3 事務事業評価の見直しについて
傍聴者	なし
議事要旨	－ 開会 － 議題1 会長及び職務代理の選任について 事務局から播元委員を会長に提案した。 出席委員による承認により播元委員が会長に選任された。 播元会長が職務代理に宮澤委員を指名した。 議題2 岡崎市行財政改革推進計画令和5年度実績報告について 資料に基づいて事務局から次のとおり説明。 ・ 計画に基づく取組の中から主な成果としてふさわしいものをピックアップして体系ごとに紹介していること。 ・ 令和5年度の総括としては、窓口でのキャッシュレス決済が全庁的に広がり、各所属において個別の課題解決にデジタル技術を活用した様々な取り組みが推進されたこと。企業の社会貢献活動と市の施策の連携が広がっていること。 【各委員の主な質疑】 ○松下委員 3ページの人口減少について、2018年の推計では2035年まで緩やかな曲線だったが、2023年推計は大幅に修正されて、2025年をピークとしてその後減少に転じるとなっている。これに対して大きく計画が変わってくると思うが、どのように考えているか。 （事務局：光田） 今年の3月に岡崎市の人口推計が発表され、前回の推計より人口の減少がより早くかつ急激に進むことがわかった。また、人口に占める65歳以上の高齢者の割合も増え、財政状況の悪化が予想される。ちょうど行財政改革大綱の計画期間が来年で中間期を迎えるので、新しい人口推計を踏まえた見直しをかけていく必要がある。

○松下委員

この5年間でこれだけ大きく推計が変わってしまう状況であると、現在の第7次の総合計画の内容も見直しが必要になると思われる。これからは人口データのフィードバックを短期間で見直すことも取り組んでいくのか。

(事務局：光田)

次の議題に関連するが、個別計画のヒアリングを行っていく。その際にこの人口推計を踏まえて将来のあり方を見直していくことになる。

(事務局：山内)

個別計画は総合計画の下位にあり、行政課題別に設けられているものである。総合計画と計画期間を合わせているものが多く、多くが中間見直しをする機会を迎える。これだけの人口減少となると、大半の計画で内容の見直しが必要になるものと考えられる。

(事務局：伊藤)

財政の観点からすると、人口に占める高齢者の割合が増えるにつれて社会保障費の支出が増える。一方で政府の経済対策でもある賃上げにより職員の給料である人件費の支出も増えていく。これらの支出の増加の割合が税収の増加の割合を越えると、これまでどおりの事業が実施できなくなってしまう。本市の財政状況は比較的恵まれてきたが、今後の人口推計から必要な予算が不足することが明らかなため、既存の事業を見直していくという癖をつけないかなければならない。

○中嶋有美子委員

社会保障費が上がらないようにする施策が必要である。高齢者でも元気で働ける人も多いので、その割合を増やしてほしい。また、働く世代の若い人が介護を行っている場合、夜中に起こされて睡眠不足になるなど、生産性の低下にもつながる。市の職員でも介護しながら子育てもしている方もいると思うが、そのような人が仕事と介護などを両立する上での悩みや不便などの実態を吸い上げて施策に反映させてほしい。

(事務局：伊藤)

高齢者の健康を維持することで介護の重症化を予防し、社会保障費を抑える施策としては、「ごまんぞく体操」の普及促進に努めている。また、ケアを行っている側の問題については、介護休暇のような休暇制度が設けられている。

○宮澤委員

社会保障費の増加や介護の重症化予防の話題が出たが、既にあるサービスにプラスアルファで支援を行う仕組み作りを今から始めないと間に合わなくなってしまうと思う。その際は、私も関わっているが、ボランティアの皆さんや岡崎市ボランティア連絡協議会も活用していただきたい。

17 ページの組織編成について、消防本部総務課に新たに消防団係が設置されたとあるが、地域からはどのような要望があるのか。

(事務局：米田)

若い世代の入団者の加入促進や、日常的なイベントの多さから本業を休んで出勤することへの負担を軽減してほしいといった要望がある。

○播元会長

若年層のケア問題については、先般の国会でヤングケアラー支援法が可決・成立し、報道等でも出ている。今後は支援体制を行政としても構築していくことが求められるが、ケアラーの課題点としては、どれだけ存在しているかななどの把握が難しい点もあると認識している。市としても実態把握を行いながら、今後の行財政運営を進めてほしい。

議題3 事務事業評価の見直しについて

資料に基づいて事務局から次のとおり説明。

- ・ 事務事業評価について、昨年度までの取組を説明。
- ・ 業務活動の上位にある個別計画について、数値指標の達成度、取組実績、社会環境変化等の評価を行う。取りまとめた結果は、企画課及び財政課と情報共有を行い、今後の展開に関するヒアリングを実施する予定である。

【各委員の主な質疑】

○中嶋拓委員

個別計画や事務事業の評価について、経営部門職員でヒアリングを行った後、こういった形でフィードバックを行い、改善につなげていくのか。

(事務局：光田)

まずは個別計画の達成度、目標に向かって業務活動が進んでいるかを確認する。また、評価シート中央部の有効性、効率性の部分が悪い業務は市が行う必要性が低い、あるいは市民のためになっていない可能性があるため、これを目安に聞き取りを行い、課題のある業務を洗い出していきたい。

○中嶋拓委員

課題のある業務を洗い出した後、その課題を解決に向けるための所管課とのコミュニケーションはどのように行っていくのか。

(事務局：光田)

発見された課題を所管課に投げかけ、見直しや改善を促していく。

(事務局：伊藤)

個別計画が順調に進んでいれば、総合計画も進展しているということにつながる。その計画の目標達成に貢献していない業務活動は当然見直す必要があることになる。わかりやすく言えば「事業仕分け」である。企画課は総合計画との整合性の確認、行政経営課は業務改善、財政課では費用対効果とそれぞれの観点からそれを検証する。

○松下委員

人口推計に基づいて個別計画や業務活動も見直してシミュレーションを行う予定はあるか。評価シートではどの部分がそれにあたるか。

(事務局：勝上)

まずは総合計画から見直して、それが個別計画に反映され、最後に事務事

業にフィードバックされる形になる。この評価シートの項目からは人口推計に基づく直接的な影響の評価は難しい。

○宮澤委員
 評価シートについては、評価の理由について自由に記載できる欄があると良い。各課へ理由を尋ねる作業が減ると思う。

○播元会長
 評価を行ってから総合計画に反映させるまでにどのようなスケジュールで行っていく予定でいるか。

(事務局：光田)
 総合計画は来年が計画期間の中間にあたるため、そこで見直しを行う。

○播元会長
 正しい評価を作成するためには、評価者側のレベルアップも求められる。評価者側の教育に関する取り組みは行っているか。

(事務局：勝上)
 職員のスキルが追いついているかということについては、事務局側としても課題に感じているところである。今後、個別計画に関するヒアリングを行い、検討や研究を行う中でスキルアップを図りたい。

(事務局：伊藤)
 部長職まで勤め上げて再任用となっている職員もいるため、長い間市役所の中にいて経営層を体験した人間の視点も活用したい。

○中嶋拓委員
 業務評価シートに関して、事業によっては改善余地や有効性、リスク管理などの評価がなじまないものもあると思うが、どのように扱っているか。

(事務局：光田)
 数値以外にハイフンが入力できるようになっている。

○中嶋有美子委員
 部署を越えて職員が抱える日々の問題を話し合える場はないか。先ほど話題にあがった介護問題など、様々な家庭環境の方もあり、生の現場の声を聴いて情報交換を行うことで市政全体の改善につながると思う。

(事務局：伊藤)
 現在のところ自由に意見交換ができる場はないが、人事課が「宵ゼミ」を開催して職員向けに組織横断的な問題について情報提供を行っている。そういった場で介護をテーマとして扱うことも考えられる。

○播元会長
 本日の議題はすべて終了いたしました。
 これをもちまして、令和6年度第1回行財政調査会を閉会いたします。

	－ 閉会 －
--	--------